

ボツワナ共和国月報(2021年10月)

主な出来事

【内政】

- 22日から30日まで国勢調査のパイロット調査を実施

【外政】

- 欧州対外活動庁アフリカ総局長のボツワナ訪問
- 自由権規約人権委員会、ボツワナにおける複数の人権問題を指摘

【SADC】

- SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)、モザンビークでの活動を延長
- エスワティニへの特使派遣
- SADC、ジンバブエに課された制裁解除を求める

【経済】

- IMFによる経済見通し
- 政府による経済見通し
- ボツワナ、金融活動作業部会(FATF)のグレーリストから除外される

【治安】

- 警察、ハボロネ市北西部のショッピング・モールにて4名の強盗を逮捕

【内政】

- 22日から30日まで国勢調査のパイロット調査を実施

人口及び世帯の実態を明らかにする2022年国勢調査に向け、すべての地区の選ばれた場所にて、22日から31日まで国勢調査のパイロット調査を実施する。国勢調査は10年毎に実施されており、前回は2011年に行われた。本来、2021年に実施される予定であったものの、コロナの影響により1年遅れている。

【外政】

- 欧州対外活動庁アフリカ総局長のボツワナ訪問

7日、ボツワナを訪問中のランジンハ欧州対外活動庁アフリカ総局長は、マシシ大統領と会談した。その際、マシシ大統領はEUに対し、ボツワナによるキンバリー・プロセス事務局誘致への支援を要請した。

【SADC】

- SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)、モザンビークでの活動を延長

SADCは5日、SADC政治・防衛・安全保障オーガントロイカ及びモザンビークが参加する首脳会合を南アフリカにて開催し、SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)の活動を延長する旨発表した。

○エスワティニへの特使派遣

22日、SADC政治・防衛・安全保障オーガン議長であるラマポーザ南アフリカ大統領は、21日から22日までエスワティニに対し特使を派遣し、エスワティニのすべての関係者と特使が面談した結果を踏まえ、国民対話に向けたプロセスを開始する旨を発表した。

○SADC、ジンバブエに課された制裁解除を求める

ジンバブエに課された制裁解除を求めるSADC反制裁の日(25日)、SADCは、ジンバブエ政府及び国民との団結を再確認し、長きに亘る同国への制裁に懸念を示すとともに、反対の意を表した。

【経済】

○IMFによる経済見通し

2021年のボツワナの経済成長率(GDP)を9.2%とし、2026年までの5年間の経済成長率を平均4%と見込む。

○政府による経済見通し

ボツワナにおける9月の年間インフレ率は8.4%で、前月の8.8%から0.4%下落したが4か月連続の8%台。また、2021年第2四半期GDPは、前年同期の大幅な下落の反動から36%(年換算)の増となった。

○ボツワナ、金融活動作業部会(FATF)のグレーリストから除外される

21日、マシシ大統領は、2018年よりボツワナが追加されていた金融活動作業部会(FATF)のグレーリストに関し、ボツワナが本リストから除外されたことを発表した。

【治安】

○警察、ハボロネ市北西部のショッピング・モールにて4名の強盗を逮捕

13日、警察は、Mogoditshane(ハボロネ市北西部)のショッピング・モールにて、現金輸送車を襲った4名の武装強盗を逮捕した。